

【記者からの質問】

< Jリーグ 伝統蓄積ランキング (JTR) について >

S T S / Jリーグの伝統蓄積ランキングは、どのような現状に問題提起したのか。

知事 / 鳥栖フューチャーズ時代から、多くの関係者が努力を積み重ねてきた。その努力を数字に表した。Jリーグは、地域を大事にするコンセプトが素晴らしい。今後も継続していくため、このランキングが手助けになるかと、スポーツファンに問題提起をした。

S T S / 野々村チェアマンとは、このランキングが全国展開に発展する話になったのか。知事 / 2人での会話をビデオ編集し情報発信する予定。内容の1つ目は、Jリーグの100年構想とSSP構想。リーダーのあるべき姿など。

2つ目は、サガン鳥栖がなぜJ1に居続けられるか。それは、効果的な育成システムやサポーターの前向きな応援があること。

3つ目に、今後どうJリーグを盛り上げていくのか。そこで、私が温めていたJTRの説明をクイズ形式で質問した。1位、2位はもちろん、サガン鳥栖とコンサドーレ札幌の順位もほぼ当たったので感心した。

< 新型コロナウイルス感染症関連 その1 >

S T S / 昨日、過去最多の694人の陽性者が確認された。病床使用率54%を基準にして、上回るまで見守るのか。経済活動とのバランスを含め知事の考えを。

知事 / これは第137回対策本部会議で使用した資料。デルタ株では、病床使用率の最高は65.5%だった。現在の病床使用率は20%超。この状況では、行動自粛のお願いをする時期ではない。

こちらは、分析チームが作ったボード。年初からオミクロン株のBA.1が増え始め、40日ほどでピークになり、その後落ち着いてくる。BA.2も同様の推移をたどった。これまでのように40日が頂点であれば、今回は7月20日くらいがピークだと予測している。試算では、感染者数が1,000人/日、病床使用率の頂点が54%。この数字より上回る場合は、対応レベルを上げたり、病床を増床したりする措置が必要になる。

S T S / 54%を超えた場合、警戒レベル引き上げの具体策は？

知事／状況にもよるが、これまでのまん延防止等重点措置や飲食店の時短営業で、対応できるとは思えない。BA.5は感染スピードが速く、社会生活を営む以上、感染は避けられない。そのときの状況次第で、呼びかける内容、病床の問題や人の対応の問題を総合的に考えたい。予想の枠内であれば、現状を維持しながら社会生活と両立していく。

S T S／まん延防止等重点措置や飲食店の時短措置は考えていないということか。

知事／考えていないし、先のことはわからない。これまでの蓄積を踏まえ、予想指標との関係で、有効な対策で適宜対応し、発表する。

S T S／マスク着用について、県民がどう着用すべきか、知事の考えを。

知事／屋外ではマスクを外していいと思う。ただ、外したまま複数人が大声で会話をすると感染の危険が高まる。そこは常識の範囲で。

また、会食の人数制限にも疑問を感じている。これまで2年以上のコロナ禍で、県民の皆さんも感染の危険性が高まる場面をある程度ご存じだと思う。そのあたりは信頼し、屋外では基本的に外していいと思う。

<高校生の県内就職について>

西日本新聞／憲法第22条では職業選択の自由が保障されていて、どこに就職するのは自由。行政が、県内就職率の目標数値を掲げる意義を教えてほしい。

知事／職業選択は自由。県外に出ても、佐賀で育ったことに誇りを持ってほしい。佐賀のために貢献するような子供たちを育てたい。

県内就職率に目標を掲げているのは、高度経済成長期以降、子供が育ったら県外に集団就職していた時期が長く続いた。しかし現在は、県内でも世界に向けて様々なことができるという情報発信する過程の中での話。就職先を選択する際に、県内のことを知ったうえで県外に行くのなら大いに応援したい。

県内の就職環境を理解してもらう仕組みを作り、高校生が納得して県内就職することはありがたい。その数値が上がっていることも勇気づけられている。

<弾道ミサイルに対応した緊急一時避難施設について>

西日本新聞／佐賀県は、全国で唯一地下施設の指定がない。国は、令和7年度までを集中取組期間として、指定数を増やす方針を示している。今後の対応を。

知事／紛争解決手段として武力行使はいけない。

佐賀県民すべてを地下に収容することはできないが、地下の必要性は認識している。まず、佐賀県庁の地下駐車場に避難できるべく準備をしていく。市町で地下が使用できる公共的な施設の調査をする。それらのいくつかの施設へは対応をしていく。

<新型コロナウイルス感染症関連 その2>

朝日新聞／佐賀県の感染者数が多い理由は、時間外の受診者が多いほかにも、子供の数が多く世帯人数が多いこと、大都市圏との交流が活発な地域であることも要因ではないか。

知事／すばらしい分析だと思う。子供の数が多く、世帯人数が多い。家族1人の感染から全員に広がり、感染者8人という場合もある。さらに、病院にかかりやすい環境もある。BA.5の場合、発熱することが多く病院にかかる。複合的な要因がからみ、人口当たりでの数字が大きくなるようだ。感染者数が正しく出ること自体は悪いことではない。その数字を基に対策を練っていききたい。

朝日新聞／今後、夏休みに入り、感染者数が減ると見込んでいるのか。

知事／これから増えていくと思う。保育園児や幼稚園児は、年中いろんな病気にかかりながら、集団で過ごしている。特にBA.5は、感染力が強いためやむを得ないところがある。まして、家庭内でのマスク着用はありえない。高齢者が感染して重篤化するのを避けるため、高齢者に感染しないよう対策を打っていききたい。

朝日新聞／ピーク時に1,000人規模の感染者を見込む中、社会生活を支える人たちに感染が増えていくと影響が大きい。どう乗り切るのか。

知事／エッセンシャルワーカーの皆さんをいかにフォローしていくかが大事なところ。例えば、施設同士、病院同士、保健所と県といった補完するシステムを考えていく。マンパワーの確保を最重点に取り組んでいく。

< 県庁敷地内への喫煙所設置について >

読売新聞／県議会の総意で喫煙所の再設置を求める請願が出された。知事が再設置しないと判断した理由を聞きたい。

知事／県民の健康を第一に考えてのこと。県民維新運動を官民一体で取り組んでいる。特に今年は、喫煙者の数を減らす取組年でもある。個人ではなかなか禁煙できない人も、集団で取り組めばできるのではないか。

もちろん喫煙する権利もある。しかし、県議会が全会一致で全員が賛成したことに違和感を持っている。本来、いろんな意見があっていいはず。だから、全会一致と言われて非常に驚いた。しかし、私が一存で決めることでもないので、先週、幹部会議でこの件を取り上げ、やはり県として県民の健康を第一義に考え、この方針を貫くと決めた。

読売新聞／近くのコンビニ前の喫煙場所を利用することに対し、担当課からは、本人のマナーで対応してほしいとのこと。これでは、根本的な解決策にはならない。どう対応するのか。

知事／たばこを吸うためだけにコンビニに行く行為は、よくない。近隣にご迷惑をおかけしてはいけないので、総務部長を中心にマナーの醸成を図っていきたい。

< 新幹線西九州（長崎）ルート関連 >

西日本新聞／弊社の世論調査の結果、新幹線のフル規格について、3年前は反対派が多かったが、今回は賛成が56%だった。今後、フル規格を求める声が高まった場合、どう答えるのか。

知事／世論調査の結果の判断は難しい。新鳥栖－武雄間の新幹線をつなぐかつながないかと聞かれれば、つなぐと答えるでしょう。そのために、在来線の便利な特急がなくなる、あるいはほかの予算を削って新幹線に充てるとわかればどうなのか。

フル規格がだめだとは言っていない。佐賀県の将来にとって大きな問題だから、ルートを含め調整しながらやっていく話だと、以前から申し上げている。

今回の調査で賛成が増えたのは、新幹線の開業効果があると思う。私自身、西九州の発展、振興のために、この機会を活用して盛り上げていきたい。新幹線が来てうれしい気持ちを大切にしたい。

<アウェイツーリズムについて>

朝日新聞／スポーツ観戦のためにアウェイに行き、各地の名物を楽しむ人たちがいる。佐賀では、呼子のイカ以外は聞かない。スポーツ観戦に来る人向けに、発信を強化したほうがいいのでは？

知事／問題意識は、全く同じです。鳥栖には、Ｊリーグのサポーターが来るが、地元で経済効果がないと問題意識を持っていた。今後、久光が佐賀アリーナを使うようになり、鳥栖、佐賀、嬉野、武雄のネットワークが大事になると思う。「鳥栖に行けばこれ、次は佐賀に行ってこれ」といったアウェイツーリズムの効果が、全県的に波及するシステムを作りたい。